

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1293200067		
法人名	スターツケアサービス株式会社		
事業所名	グループホーム きらら当代島 (2階ユニット)		
所在地	千葉県浦安市当代島2-22-29		
自己評価作成日	平成22年10月25日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do">http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アミュレット		
所在地	東京都中央区銀座5-6-12みゆきビルbizcube7階		
訪問調査日	平成22年12月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームだからこそ出来る支援、グループホームにしか出来ない支援を念頭に自宅にいる時と同じ生活を送り当たり前の事を当たり前にすることが出来るように職員一同が協力して支援している。外へ出てゆく支援に力を入れ、買物・散歩などできる限り利用者の望むところに出かけて行ける様にしている。  
ホームでの生活の中心は利用者である事を第一に個々の利用者のADLやQOLを考へて出来ることを見つける努力をし、話し合い全職員が統一した支援が出来るように努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「地域に根付いたあたたかみのあるホーム」を3年後の目標として掲げ、目標達成に向けた年度計画、重点項目を策定し、ホーム長、リーダーが中心となり、計画達成に向けた具体的進捗方法を毎月決定している。日々のケアにおいても、買い物や散歩など、出来る限り、利用者が望むところに出かけ、ホーム内はもちろんのこと、戸外での活動も充実させ、支援の幅を広げている。地域との交流に関しては、地域行事である盆踊りの参加や近隣の商店に利用者と共に買い物に出かけるなど、地域行事への参加や地域資源を活用し、近隣との交流充実に努め、地域に根付いたあたたかみのあるホームとして着実に前進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所内に理念等を掲示いつでも確認が出来るようにしている。地域に密着した生活を行えるように日々の実践に繋げている。	「地域に根付いたあたたかみのあるホーム」を3年後の目標に掲げ、事務所内に掲示している。理念達成に向け、毎月、月次運営報告において当月の取り組み課題、前月の振り返りを図り、3年後のあるべき姿に前進している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の買物は地域のスーパー・酒屋・肉屋を利用し、顔なじみになっている。また、地域で行われる行事には積極的に地域住民とのコミュニケーションを図っている。	地域との交流に関しては、地域行事である盆踊りの参加や近隣の商店に利用者と共に買い物に出かけるなど、地域行事への参加や地域資源を活用し、近隣との交流充実に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の人々に認知症の人も毎日普通に暮らしていることを理解してもらう為、積極的に外へ出て挨拶を交わしながら歩くようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の職員・自治会長・民生委員・地元スーパー・商店店主などに広く呼びかけ地域住民・家族と共に生活状況報告と自由な意見交換を行っている。(運営推進会議)	運営推進会議は2ヶ月に一度定期的を実施している。会議ではホームの運営報告のほか、身体拘束ゼロへの取り組み、防災訓練の報告等を行っている。近隣のグループホームの職員も参加するなど、参加者の幅も広げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	困ったことやわからない事は担当者に連絡を取り相談・助言を貰っている。運営推進会議には必ず出席してくれ、その際にも様々な話をする時間を設けている。	市の担当課との連携に関しては、入居状況を定期的に報告するほか、運営推進会議において状況を報告している。また、運営上の疑問点等が生じた際には連絡を取るなど、適宜連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルや社内研修で全職員が認識できるようにしている。玄関の施錠も含めて、身体拘束に関するようなことをしないように職員全員が注意している。	身体拘束ゼロへの取り組みとして、ホーム内において「身体拘束と高齢者虐待防止について」の研修を実施し、職員の共通認識を深めている。法人本部においても「高齢者虐待防止」研修が実施され、組織的な対策が図られている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	マニュアルや社内研修で全職員が認識できるようにしている。入浴時の身体状況の確認や職員のストレスに気を配り、気軽に話ができるように注意している。		

グループホームきらら当代島(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修で学ぶ機会を得たが、全職員が参加するまでには至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時の説明はホーム長が一括して行い、十分な時間を取って説明し家族・利用者本人の意向を取り入れるように努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族・利用者の意見や要望には常に耳を傾けユニット日誌やユニット会議等で伝えている。また、玄関にご意見箱を設置し気軽に意見が出せるようにしている。	内外の苦情窓口に関しては、重要事項説明書に明記し、契約時に家族に説明している。また、ホーム玄関先に意見箱を設置しているほか、面会時において意見や要望を収集している。家族からの要望はユニット日誌に記録し、職員間で共有できるよう取り組んでいる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会議・ユニット会議・日誌などで随時意見を出し合い、日々のケアに活かせるように努めている。	職員からの意向や要望に関しては、各ユニット会議の場で話し合いの時間を設けている。また、各職員が「目標管理シート」に今後の目標を記入し、その内容に沿って、管理者が定期的に面談を実施し、一人ひとりから意見を収集している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	休日出勤手当、時間外手当、運転手当などのほか、職員が見つけた外部講習にも参加を推進し個々のスキルアップに対する支援もしている。また福利厚生も整備されている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	様々な研修を毎月行い職員教育にも力を入れている。また、外部研修参加費の助成も行い、職員が積極的に参加しスキルアップも出来るように支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に他の施設から参加してもらったり、市内同業者共同で音楽鑑賞会をおこなったり、同グループのほか施設を見学しあったりして交流している。		

グループホームきらら当代島(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者の情報提供を共通し、話す時間を多くとり、本人の希望に沿った支援を行い信頼関係を築く。安心して毎日を過ごしてもらえるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族とのコミュニケーションは大切に考えている。家族がここにお願ひしてよかったと思ってもらえるような施設作りを常に考えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者の言葉・家族の言葉に耳を傾け、望んでいることをしっかりと把握し、職員間で話し合い、毎日の生活の中で対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者を主体にして、職員は寄り添う形で日常生活を行い。利用者は人生の先輩として敬う気持ちをもって接している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族が両方で支えられれば利用者にとって最善であり、そのように努めているが各家庭の事情によることもあり、ケースバイケースで対応することもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの店に買物に行ったり、散歩コースに取り入れたりして昔のことを聞きながら歩き、地元スーパーや祭りなどで会える機会を作っている。また、施設への訪問も時間を定めず自由に行っている。	馴染みの場所への買い物や利用者のゆかりのある場所へ出かけたりするなど、ホーム入居後においても、馴染みの人や場との関係が途切れないような支援に取り組まれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	散歩や食事の座席の組合せなどを調整しながら自然になじんでいくように職員が利用者同士の関係に十分配慮しながら関わっている。		

グループホームきらら当代島(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	また、契約終了者は出ていない。今後契約終了者が出た場合には出来る限り相談に乗りたいと思っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	沢山話をする事で、本人の気持ちをひき出し支援に繋げていけるようにしている。	利用者の思いや意向に関しては、日常会話の中から収集するほか、ケアプラン作成時のアセスメントにおいて、利用者一人ひとりの課題の抽出、及び意向合要望を収集している。家族の方にもアセスメント用紙を配布し記入を頂いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を使用し、家族から聞いた情報や本人との会話から楽しかったこと幸せに感じる事嫌なこと把握するように努め毎日の生活に活かすようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	やりがいを感じてもらえること、好きなことを見つけ日誌や会議等で職員間で話し合い情報を共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者会議などで職員の意見を出し合い本人や家族の言葉なども参考にしながら支援の見直しを行っている。	ケアプラン作成においては、本人、家族の要望を取り入れるほか、定期的に担当者会議を開催し、職員の意見も収集し総合的な意見を踏まえ作成している。ケアプランの進捗状況は毎月のモニタリングで確認している。	ケアプラン作成時のアセスメントにおいて、アセスメント時期を明確に定め、定期的な見直しを図り、真に利用者が望むことを、全職員間で共有し、支援に反映する仕組みが整うことに期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の介護記録により職員が情報を共有し介護計画に役立てている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	グループホームのあり方を考え施設化しないように個々のニーズにあった様々な支援に取り組むように努めている。		

グループホームきらら当代島(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	毎日の散歩コースやスーパー・コンビニ・市場・パン屋での買物と、出来るだけ多くの場所と関りを持てるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2回の訪問診療と、週に1回の訪問歯科の他、利用者によっては馴染みの病院への定期的な受診をしている。	月に2回、提携先医療機関による訪問診療が実施されている。担当医とは24時間連絡が可能であり、緊急時においても適切に医療を受けられる体制を整えている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問診療時に同行する看護師に利用者の状況を伝え、相談に乗ってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	家族や職員が病院で正確に情報を伝えられるように介護サマリーを準備している。また、往診医とも密に連絡を取り合い関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に家族から終末期のありかたをアセスメントしているが、全員の家族から意見を聞くことは出来ていない。	重度化や終末期に向けた方針に関しては、入居時に家族の方に終末期に関する方向性を聞き取り、ホーム所定のアセスメント用紙に記録している。また、契約時においてホームとして対応できる範囲を家族に伝え、重度化や終末期に向けた方針を共有している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	AEDを設置し使用方法の研修を受け緊急時連絡網を作り速やかに連絡が取れるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の防災訓練を行い、地域の人や家族に協力をしてもらっている	突発的な災害に備え、防災訓練を年度内に2回実施している。訓練では近隣の住民や商店の方の参加もあり、近隣の協力体制も築いている。避難場所についても職員間で共有されている。	

グループホームきらら当代島(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々のプライドを尊重しつつ他利用者との関係作りの為に職員は目配りと気配りを行い対応している。	利用者に対し不適切な対応にならないよう、声かけに関しては、日頃から注意を払い、不謹慎な発言が生じないよう取り組まれている。利用者の居室へもむやみに立ち入ることはしないなど、利用者のプライバシーに配慮した支援が図られている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員との会話の中で利用者の希望を引き出せるようにして、選択の幅を広げ自己決定できるように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者本位の生活が前提だが、毎日の生活の中で役割を持っていただき時間軸を意識した活動を基本としている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	就寝時の明日の服選びをしたり、毎日の清潔に努めている。随時理美容院にも付き添っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立に合わせて買物・調理・片付けを一緒にいり食することの楽しみを毎日感じてもらえるように努めている。	食材の買い物や調理、盛り付け、後片付けなど利用者も主体的に取り組めるよう支援している。食事中は、職員も食卓を囲み適宜会話をしながら食事をするほか、利用者の希望に応じて外食も実施するなど、食事が楽しみひと時となるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量のチェックを行い体重の増減を把握し往診医に伝えている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科医のアドバイスを基にして、個々に必要な口腔ケアを行っている		

グループホームきらら当代島(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々に合わせて、トイレでの自力排泄が出来るように支援している。	利用者一人ひとりの排泄パターンを記録に残し、一人ひとりのパターンに応じ、必要に応じて声かけでトイレ誘導を促し、排泄の失敗等が生じないように取り組まれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄チェック表を活用し、排泄状況を把握、水分摂取量や食事内容を見直し、運動し自然に排泄できるように努めている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は決まっているが、発汗時の清拭や着替えは随時行ない、入浴中のリラックスした時間を大切に気分よく過ごせるように会話などを考えて支援している	入浴に関しては、3日に1回のペースで入浴できるよう支援している。介助が必要な場合には、職員が介助に付き、安全に入浴できるよう支援している。	家族アンケートの意見から、入浴を柔軟にしてほしい、入浴に数を増やしてほしいとの意見が寄せられていることから、家族の要望も踏まえ、柔軟な対応が図られることに期待したい。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣を汲み、日中の活動を考え、夜間安心してゆったりと眠れるように生活のリズムを整えられるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の使用目的などは個人のファイルに詳細が記載された書類を保管している。服薬時には数回にわたる確認を行い誤薬がないように注意している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントツールを利用し一人ひとりに必要と考えられる支援が出来るように考えている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	近くに住む家族と、朝犬の散歩に行ったり、ほぼ毎週家族と食事に出かけたりしている利用者もいる。また、外食行事なども計画を立て、外に出る機会を多く持ち生活に変化をもたせるようにしている	戸外活動に関しては、毎日ホーム周辺の散歩に出かけたり、近隣のスーパーまでの買い物、図書館や喫茶店の利用のほか、年間行事計画の中でも外出行事を取り入れ、ホーム内のみでなく、戸外での活動の充実にも積極的に取り組まれている。	

グループホームきらら当代島(2階)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者の生活用品の補充や希望する物があるときには個別に職員と買物に行き利用者自身に預かり金から支払いをしてもらっている。預かり金の管理は事務所でやっている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち、家族と連絡を取っている利用者もいる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清潔に気を配り、においに関しては特に注意している。また、リビングには植物を置き明るい雰囲気を作るようにしている	利用者が集うリビングスペースには、ソファやテーブルの位置も工夫し、利用者が過ごしやすい環境としている。トイレや浴室は清潔さが保たれているほか、廊下等においても歩行の妨げになるものは放置せず、安全面にも配慮されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルの位置を工夫し、それぞれが思い思いに過ごせるよう心地よい空間を演出できるようにしている		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室に使い慣れた家具を置くことで、以前の生活に近い状況を作れるようお願いしている。	居室内においては、これまで使い慣れた私物の持ち込みを可能とするほか、居室内の家具等の配置においても利用者の状態、家族の要望に応じて決定している。	居室内の掃除や衣類の管理等にも配慮し、利用者がより一層、快適に生活できる空間として配慮されることに期待したい。
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室、トイレ・リビングの場所の認識から台所での調理・食器片付け洗濯機の使いかたまで一人ひとりの力に合わせて出来る力を生かせるよう支援している。		